



学校通信

令和6年 2月 1日
東京都立葛飾盲学校長
岩下 桂郎
(第11号)

なりたい自分へ

校長 岩下 桂郎

1月31日は都立盲学校の入学相談があり、盲学校への進学を希望する本校の中学部3年生も進路先となる学校で入学相談に挑みました。寒い日が続く中でしたが、今もてる力をしっかり発揮してきたことと思います。

本校は中学部までのため、進学を希望する卒業生は、その学校で受験や入学相談を受けます。今ある場所を離れることは15歳の子供たちにとっては大きな挑戦であり、次のステージに到達するためには学校での「進路学習」や御家庭の支援が欠かせません。子供たちが「進路選択」という大きな課題にしっかり向き合い、目の前の受験だけでなく、将来どのような生活をしたかを見据えた決定ができるよう、しっかり準備をしていくことが必要です。

本校の中学部3年生もそれぞれの進路決定に向け、卒業生の話や聞き取り、志望する学校を実際に見学に行ったり、その先の生活を見据えるために作業学習や就業体験にも取り組みました。進路学習の一つとして先日校長室で面接の練習をしましたが、入室前は手の震えがわかるくらい緊張した面持ちの生徒もいました。「本校を志望する理由は何ですか」「中学校でどんなことを頑張りましたか」「入学後やってみみたいことはありますか」「就きたい職業や将来の夢はありますか」といった質問にとってもまっすぐに答えようとしていたことが印象的でした。

進路学習では、将来の生活をイメージしながら自己実現を果たしていこうとする力の育成を目指しています。たくさんの不安の中で、今はまだ漠然としていても、夢みたく話と思われても、自分の好きなことを大切にしてください。夢をそのまま実現することは難しくても、そこにある「なりたい自分」に向かおうとすることがとても大切なのです。

「副籍交流について」

今年度、本校で副籍制度を利用している児童・生徒は27名（直接交流6名、間接交流11名、学籍のみ10名）です。コロナで中止になっていた直接交流が復活し、行事、図工や音楽への授業参加、給食交流等を行っています。直接交流を終えた児童は、「楽しかった！」と笑顔で話してくれました。保護者の方からは、「小学校の皆さんが楽しみに待っていており、ありがたい。大勢の中で授業を受ける経験ができてよい。」「本人が楽しく参加し充実しているようだ。」等、また、交流校からは、「盲学校の様子を知ることができた。」「子供同士で自然に関わることができている。」等の感想をいただいています。間接交流では、お便り交換だけでなく、保護者が交流校の授業参観をしたケースもあり、地域の学校や同学年のお子さんの様子について知る機会となっています。

一方で、地域で障害についての理解が進んでいるのか不安、との声もあります。本校としても地域での障害理解啓発に尽力するとともに、保護者の皆様の思いを交流校、各区の担当者に積極的に伝えていきたいです。

(支援部 田中温子)